

授業科目名	音楽心理学	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	栗林 文雄	単位	2	年次	1

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

音楽という我々にとってなじみの深い芸術活動を主題にし、その発生、歴史、社会的役割とその変遷などを学ぶ。また音の物理的側面の理解、人間の音楽に対する生理的、心理的な反応を探り、音楽行動全般についての基礎的な理解を深めることが目的である。(到達目標) 学生は議論されるトピックについて、その75%以上を理解する。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

(注) 将来、音楽療法関係科目を履修する予定の1年生は、春学期にこの科目を履修しておくこと。学生は受講しながら、重要な言葉をメモしておく。そのメモを資料として、A4用紙一枚の講義レポートを作成する。レポートの書き方は講義で説明する。

### ＝授業の概要＝

キーワード

人間と音楽との関係、人生の各時期における音楽との関わり、人間の発達と音楽、音楽能力、聴覚の生理、音楽の構造、心の現象としての音楽、音楽療法における音楽の役割

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認  
人間と音楽 1回目
- 2回 人間と音楽。生涯にわたる音楽活動（ピアジェ理論）
- 3回 青年期と音楽
- 4回 音楽能力について
- 5回 音響現象の基礎1（音の発生、音の性質、伝達）
- 6回 音響現象の基礎2（音の受容と聴覚器官、聴覚中枢）
- 7回 音楽の構造1（リズムの働き、構造、理論、リズム能力の発達）
- 8回 音楽の構造2（旋律、テトラコード、和声）画像による脳の説明
- 9回 音楽と情緒（理論、中枢の働き、画像による脳の説明）
- 10回 気分反応、音楽行動と研究法
- 11回 人間の意識と無意識、フロイトの理論と音楽
- 12回 人間の無意識と音楽、集合無意識ユングの理論
- 13回 音楽療法における音楽の働き
- 14回 音楽療法におけるセラピストの働き
- 15回 音楽療法における理論の重要性
- 16回 期末テスト 33問

### ＝テキスト（必携）＝

『音楽療法入門第3版(1)』デイビス・グフェラー・タウト著 栗林文雄訳 一麦出版社

### ＝参考書・参考資料（必携）＝

### **=成績評価の方法と評価の基準=**

- 1) 毎回のレポート提出（5～0評価点）25%とする。
- 2) 出席点は出席5点、欠席0点とし、合計で25%とする。
- 3) 期末テスト33問の成績は50%とする。  
以上の合計点で総合成績とする。

### **=その他=**